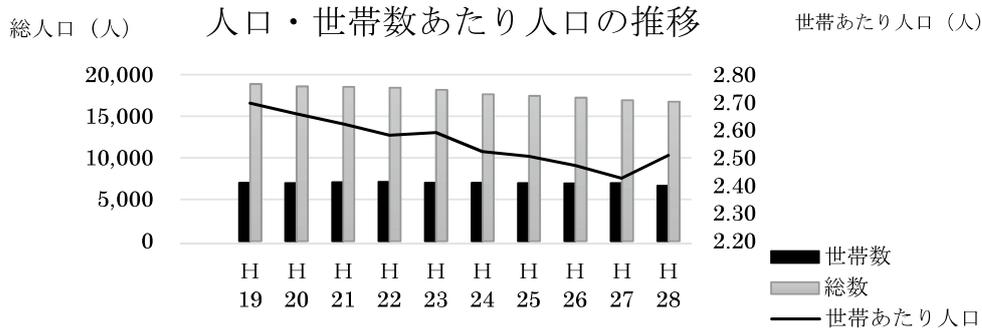


第2章 男女共同参画を取り巻く町の現状

1. 人口や婚姻状況からみる現状

(1) 人口等の推移

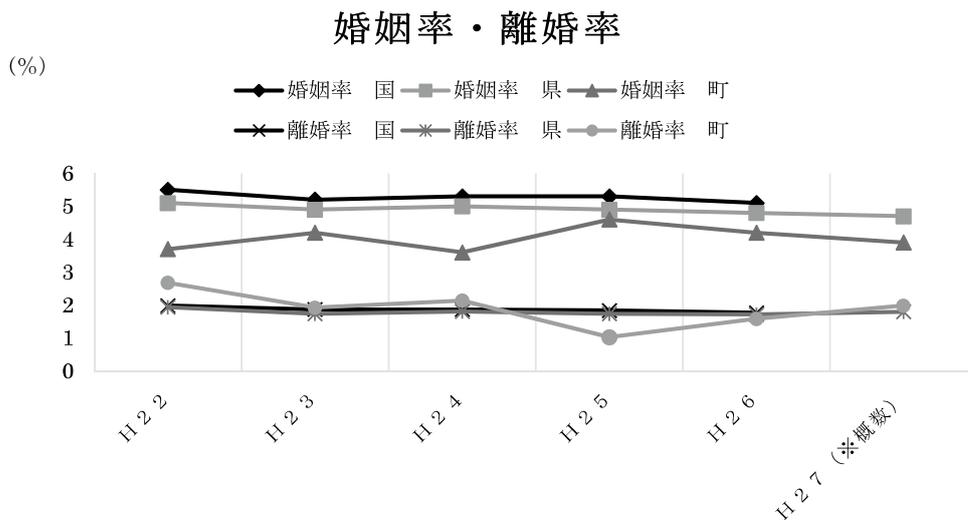
本町の人口は、平成13年に20,000人を割り込み、平成28年4月1日現在で16,765人(常住人口)となりました。一方、世帯数はほぼ横ばいを続けており、このことから、世帯あたりの人口が減少するなど、核家族化の傾向が進んでいることがわかります。



出典：茨城県常住人口調査(各年4月1日)

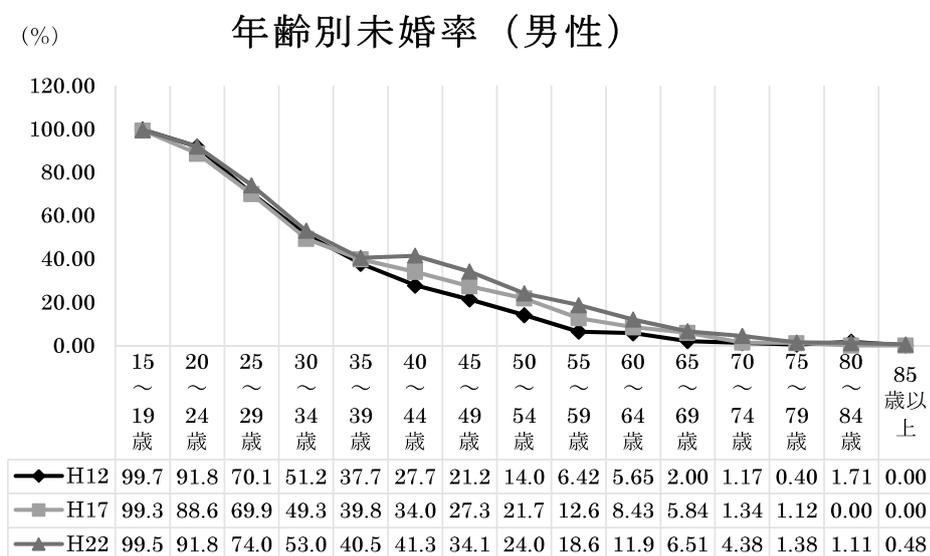
(2) 結婚や離婚の状況

本町における婚姻率は、下図に示すとおり、国及び県の値よりも低く推移しています。また、離婚率については、その年によりばらつきはあるものの、平均すると国及び県の値と同数程度で推移しています。

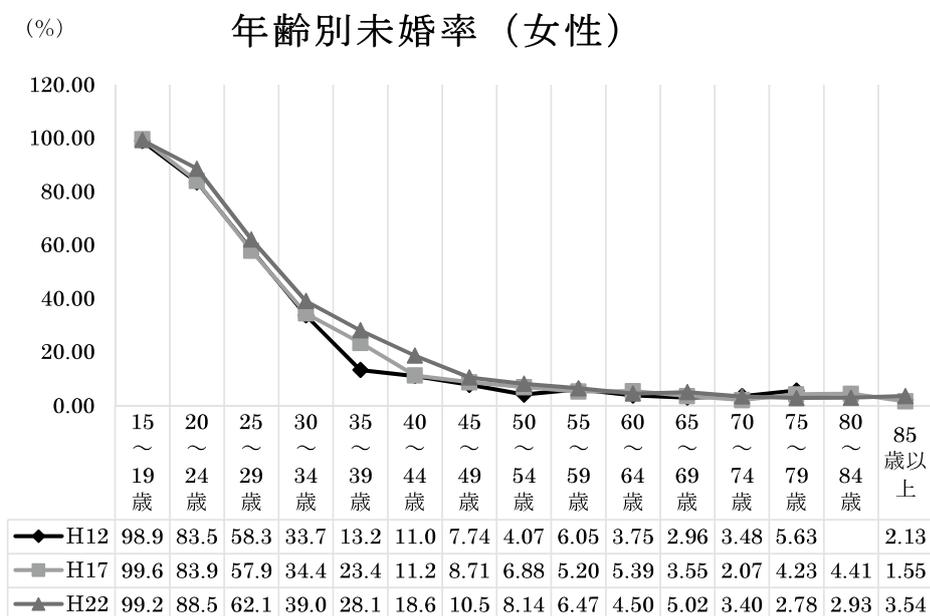


出典：総務省人口動態調査(国) / 茨城県人口動態調査(県・町)

また、年齢階級別の未婚率は近年徐々に高まっており、平成 22 年の調査における男性の 40 ～ 44 歳及び 45 ～ 49 歳の未婚率が平成 12 年調査時から大きく上昇しています。また、女性の 35 ～ 39 歳及び 40 ～ 44 歳の未婚率が同じく上昇しています。



出典：国勢調査

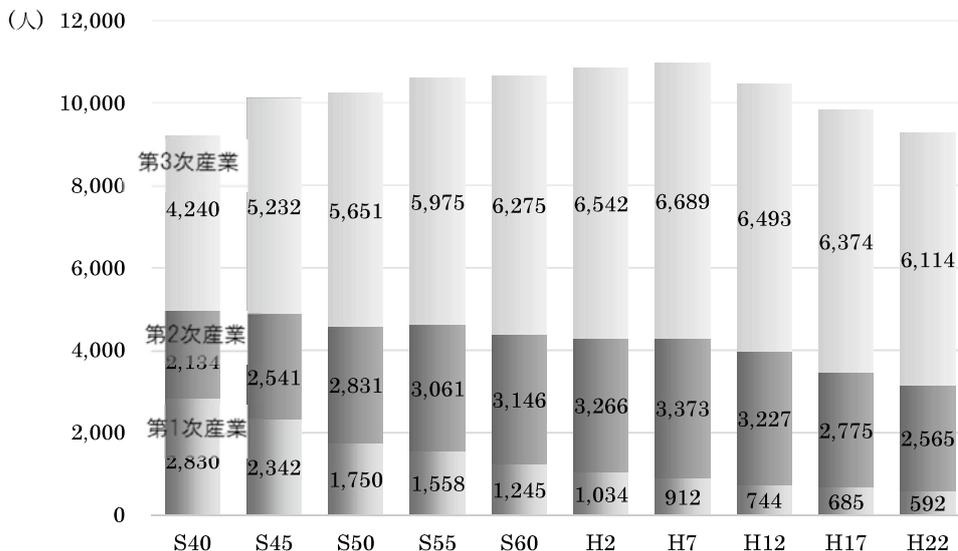


出典：国勢調査

2. 産業や就業構造からみる現状

(1) 就業者等の状況

就業者の全体数が平成7年以降減少傾向にあり、特に農業や漁業の第1次産業は後継者不足により就業者数の減少が続いています。

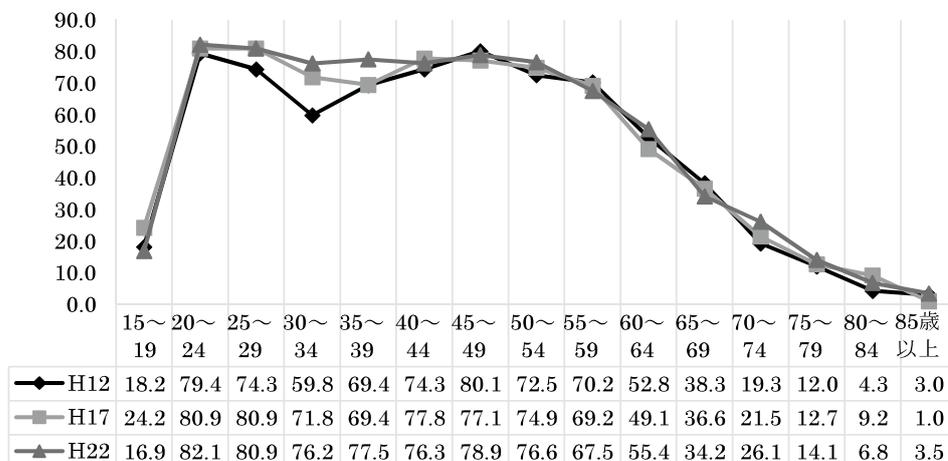


出典：国勢調査

(2) 女性の年齢別労働力率

女性の年齢階層別労働力率をみると、30～34歳の年代で労働力が一旦下がる、いわゆる「M字カーブ」が、平成12年から平成22年にかけて緩和されてきていることがわかります。

女性の年齢別労働力率



出典：国勢調査

3. 外国人登録者数の現状

(1) 外国人登録者数

本町の外国人登録者数は712人（平成28年8月1日現在）で、4年前の平成24年時と比較して5人の増加となっており、また、国籍についても、24カ国と4年前に比べて5カ国増加するなど、国際化が進んでおります。主な国籍は、インドネシア・中国・フィリピン・タイとなっており、町内在住外国人の総数は、町内人口の約4%を占めております。

【外国人国籍別登録者数】

(単位：人)

国名	平成24年	平成28年	差
インドネシア	301	353	+52
中国	192	103	-89
フィリピン	95	89	-6
タイ	43	54	+11
ベトナム	16	27	+11
ネパール	5	18	+13
カンボジア	0	13	+13
韓国	16	10	-6
その他	39	45	+6
合計	707	712	+5

出典：町住民課



